



令和6年度  
京都府教育委員会  
への要望書

久御山町

## 要 望 書

平素は、本町行政運営全般にわたりまして、多大なるご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、本町では「全世代全員活躍まちづくりセンター整備」をはじめ、「久御山中央公園の整備」、「みなくるタウンの整備促進」、「内水排除対策としての調整池整備」など、大型事業を積極的に進めているところです。

昨年5月から新型コロナウイルスが5類へと移行され、本格的な社会経済活動が再開してまいりました。しかし、ロシアのウクライナ侵攻や中東紛争に加え、食料やエネルギー等の物価高騰、欧米諸国との政策金利差による円安が続くなど、経済の更なる不透明化が増しております。

このような中、本町におきましては「絆の響鳴」を掲げ、「地域のきずな再構築支援事業」、「まちのがっこう開催支援」、「はぐくみ定期便事業の開始」、「地域子育てモデル事業」などを実施し、各施策を通して人と人との絆が回復しつつある手応えを感じているところです。

一方、人口減少や少子高齢化、それに伴う地域コミュニティの機能低下、予測不能な災害への備えなど、住民の生活は不安定な状況が続いております。これらの課題に対応するため、住民と行政による「協働と連携」のまちづくりを目指しておりますが、課題が山積しております。

本町は今年「町制施行70周年」という節目の年を迎えま

す。70年をかけて発展してきた「久御山町」をさらに進化させ、次の80年に向け素晴らしい未来を創造するため、さまざまな取組みを推し進め、力強い一歩を踏み出す年として参りたいと考えております。

今後におきましても、住民と行政が手を携え、誰ひとり取り残さない希望多き未来と、まちの将来像として掲げている「つながる心 みなぎる活力 京都南に『きらめく』まち ～夢いっぱい コンパクトタウン くみやま～」の具現化に向け、京都府のご指導をいただきながら課題等の解消に向けて、精力的に取り組んでいく所存でございます。

つきましては、本町における課題等を下記の事項のとおり要望させていただきますので、特段のご高配を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和6年8月9日

京都府教育委員会教育長 前川 明範 様

久御山町長 信貴 康孝

## 令和6年度 京都府教育委員会への要望項目一覧

項目	所管部課
タブレット更新等への支援について	教育庁指導部
日本語指導が必要な外国にルーツをもつ児童生徒への支援について<新規>	教育庁指導部
小学校の専科教員の増員について<新規>	教育庁管理部
子どもの教育のための総合交付金による支援について<新規>	教育庁管理部
旧山田家住宅に係る保存・活用への支援について	教育庁指導部

# 【 教 育 委 員 会 】

## タブレット更新等への支援について

G I G Aスクール構想の前倒しにより令和2年度に整備した端末は、やがて5年を経過し、令和7年度末には更新時期を迎えます。

また、端末の活用が進む中で、校内通信ネットワーク等の拡大や改修などが必要な状況となっています。

G I G Aスクール構想をさらに推進するため、**次のフェーズに向けた端末機器や周辺機器の充実や更新等については、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」において国策として推進する旨、示されていますが、さらなる京都府の財政的支援をお願いいたします。**

現在、一人1台のタブレットが整備され、京都府学力診断テスト（学びのパスポート）のC B T化への対応や、京都府教育委員会の全国初の取組となる「子どもの教育のための総合交付金」に係る本町の新規事業におけるタブレットの活用など、学校生活においてもタブレットはなくてはならないものとなっています。

この整備に向けては、端末等の費用や設定費、ソフトの使用料など、約1億4千万円余りがかかっており、国庫補助として約4,600万円の支援をいただいたものの、町の財政負担は大きなものとなっています。

### **日本語指導が必要な外国にルーツをもつ児童生徒への支援について**

近年、外国人労働者が急増するなか、久御山町においてもここ5年で574人（3.56%）から995人（6.47%）と大幅に増加している現状です。

それにあわせて、家族で来日されている方も多く、町内のこども園や小学校に入学を希望される外国籍の子どもも増加しています。

また、近年、日本語をまったく話すことができない方が増加し、日本語指導や母語での支援なども難しく、転入時や懇談の際に保護者に学校の意図を理解してもらうことに苦勞しています。

久御山町のような小規模な自治体においては、児童生徒数も少なく日本語指導加配を配置することも難しい中、通訳ボランティアなどの人材もなかなか見つけられず、英語だけでなくベトナム語などになれば、さらに確保が難しい状況です。

**そのため、児童生徒に対しての日本語指導と保護者との懇談時等の通訳等のボランティアバンクの設立をお願いいたします。**

### 小学校の専科教員の増員について

現在、久御山町には、理科と外国語の専科教員を配置いただいているところです。専科教員の配置により、週の指導時間が2～3時間程度削減され、その分教材研究や校務の事務作業などに時間を割くことができ、働き方改革の一端として効果を得るなど、現場教員からも、評価を得ているところです。

また、専科教員が入ったことにより、空き時間ができ、他の授業参観の機会にもつながり、若手教諭の授業力向上にも効果が見込める状況です。

児童数が年々減少する中、学級数も減少し、教員の年齢も下がっています。そのような状況の中、専科教員による指導による系統的で探求的な授業は、学校全体として児童の育成につながり、また複数で指導することにより生徒指導においても良好な方向に進んでいます。

今後は、現在最も授業時数の多い中学年にも、その効果を広げ、**誰一人取り残さない「子育て環境日本一」**を目指す京都府の教育のために、さらなる府独自の専科指導加配の配置をお願いいたします。

## 子どもの教育のための総合交付金による支援について

久御山町児童生徒には、全国学力・学習状況調査においても、年齢が高くなるにつれ全国との差が顕著になるというように学力に大きな課題があります。

そのため、こども園、小学校、中学校を久御山学園として捉え、園小中一貫教育を実施し、言語力と自己指導能力の育成に取り組んでいます。また、町独自で小中学校には学習支援員や図書館司書、小学校にはALTを配置し、学力向上に取り組んでいるところです。

一方、久御山町は、通塾率が全国と比較しても低く、そこには保護者の意識や就学援助率が高いことも背景にあると分析しています。

現在、主体的に学習したいと考えている中学生を対象に「ゆめ☆スタ講座」を、株式会社トライと契約し、定期テスト前や長期休みの期間に年間で20回（各2会場）実施しておりますが、単発であること等から参加人数も少なく、十分な学力が保障できておりません。

来年度以降、学力定着に向けて中学校とも連携し、さらに対象者を小学校からとし通年による新たな「ゆめ☆スタ講座」を実施したいと考えております。

**誰一人取り残さない「子育て環境日本一」を目指す京都府の教育のために、さらなる京都府の財政的支援をお願いいたします。**

## 旧山田家住宅に係る保存・活用への支援について

国登録有形文化財である旧山田家住宅は江戸時代後期の建築物であり経年による傷みが目立つため、耐震性など安全面にも配慮した適切保存にあたりつつ、一層の活用に努めているところです。

さらに、**集落・町並みの景観も含めた伝統的建造物群保存地区化の可能性も視野に入れ、今後の運営骨子となる「保存活用計画」を令和7年度を目途に策定し、その後は「国庫補助金（登録有形文化財建造物修理等事業費国庫補助）」を活用した耐震対策工事や公開活用に資する設備の整備等にあたりたいと考えております。**

そのためにも、令和4年度から設置した保存活用計画検討委員会に、府文化財保護課の建造物担当者に意見参考人として、引き続きご支援いただきますようよろしくお願いします。

本町は、平成25年に国登録有形文化財旧山田家住宅（久御山町東一口35番地）の寄贈を受け、長屋門・長塀の保存・修理工事等を経て、平成29年度からは旧山田家住宅はもとより地域の歴史や文化を広く町内外に知っていただくために一般公開や地域のご協力を得て特別公開を実施し、保存と活用に努めているところです。

